

天台宗 海外開教・ハワイ別院開創五十周年記念法要並びに ハワイ別院 第三代住職 晋山奉告法要

西前橋部 光巖寺名誉住職 田中祥順師



天台宗海外開教並びにハワイ別院開創 50 周年記念法要・ハワイ別院第 3 代住職 田中祥順師晋山奉告法要 厳修 2023 年 11 月 25 日(日本時間 26 日)

◀ 4・5・6 頁に特集記事



発行日
令和 6 年 8 月 1 日
発行所
高崎市中尾町 1261
TEL.027 (362) 5620
天台宗群馬教区宗務所
発行人
三浦 祐 俊
編集責任者
小出 行 観
印刷所
芝入印刷株式会社
TEL.027 (253) 4937



何のために
生きる？

群馬教区議会議長

林 祐進

古い話ですが、山田洋次監督の『男はつらいよ』には仏教的な味わいのある作品が多々あります。中でも印象深いのは次のシーンです。

甥の光男が寅さんに向かって「人間って、なんのために生きてんのかなあ」と質問する。

寅はしばらく考えたあと、「なんて言うかなあ、ほら『ああ生まれてきてよかったな』って思うことがなんべんかあるじゃねえか。そのために人間生きてんじゃねえのか」と応える。



ごあいさつ

群馬教区檀信徒会連盟会長
神宮 直仁

新型コロナウイルスの世界的流行も収束の兆しを見せ、日常生活が徐々に通常に戻りつつあります。しかし、檀信徒の皆様におかれましては、決して油断することなく、引き続きご自身の健康にご留意いただき、無理をなさらぬようご自愛ください。

コロナ禍が落ち着きを見せる中、昨年十一月には天台宗ハワイ別院において、「天台宗海外開教並びにハワイ別院開創五十周年記念法要」および「天台宗ハワイ別院第三代住職晋山奉告法要」が厳修されました。前橋市光巖寺の名誉住職である田中祥順師の新住職任命にあたり、群馬

喜劇には違いなのですが、ストーリーの中でさりげなく、人間は何のために生きるのかという重い問題を投げかけています。

生まれてきてよかった、生きてよかったという感動は、心の底から湧き上がる美しい感動です。しかしそれは一生の間に滅多にない貴重な感想でもあります。思い返してみれば、生きてる間には「なんべんか」のこと。

その「なんべんか」のために人間は生きていくという。こういうことを、ちよつと考えて言い出すあたりに、寅次郎という人物の偉大さを感じます。これはもう釈迦の説

法であります。

お釈迦さまは、ご臨終に際して最後の説法を弟子たちに遺しました(遺教経)。その内容をひとことと言うと、煩惱解脱をめざして持戒精進せよという遺言です。

解脱を解りやすく言えば「ああ生まれてきてよかったな」と思うこと。このひとことによつて、それまでの過程に持戒精進の積み重ねがあることまでも知らされます。

私には、寅さんの言うことがこのようにお釈迦さまの言葉と重なって聞こえるのです。昭和の時代、寅さん映画は盆と正月に封切られました。

県からも多くの方が渡航し、当日は国内外より約百三十名が参集しました。

また、五月三十日には前橋市の J A ビル大ホールにて、群馬教区檀信徒会連盟・伝道師会連盟の令和六年度総会及び研修会が開催されました。

が、この度、天台宗檀信徒会理事に任命されました。これまでには群馬教区檀信徒会連盟の会長を務めておりましたが、今後は全国の檀信徒会を統括する重責を果たすべく、精励してまいり所存でございます。

諸行事も徐々に通常開催へと戻りつつありますが、未だ完全に安心できる状況ではございません。皆様には引き続き新型コロナウイルスへの注意を怠らず、健康で幸福な生活を送られますよう、心よりご祈念申し上げます。

また、私事ではございますが、心に聴講いたしました。

天台宗布教師会

関東信越地区協議会 群馬教区担当研修会

天台宗布教師会関東信越地区協議会

令和六年度研修会が

盛大に開催される

天台宗布教師会関東信越地区協議会主催の令和六年度群馬教区担当研修会が、六月五日に群馬県渋川市の伊香保温泉ホテル天坊で盛大に開催されました。

今回の研修会は「これからの寺と僧」を総合テーマに掲げ、三つの講座が行われ参加者約二六〇名が集まりました。

開講式では、三浦祐俊群馬教区宗務所長導師のもと法楽が行われた後、金子聡秀関東信越地区協議会会長、角田興憲群馬教区布教師会会長の挨拶に続き、岩田真亮天台宗教学部長並びに今出川行戒比叡山延暦寺副執行による祝辞が述べられました。

第一講座では、京都産業大学日本文化研究所客員研究員の吉澤健吉氏が「山田恵諦座主の言葉」と題して講演を行いました。吉澤氏は京都新聞記者時代、山田恵諦座主の担当記者として宗門外の立場から交流を深め、座主のお言葉を紹介しながら、宗教の違いを超え、互いに円融し平和な世界を願われたことなどを明らかにし、参加者たちは深い感銘を受けました。

第二講座では、お笑いコンビTIMのゴルゴ松本氏が「命の授業」を行いました。漢字を独自の解釈で捉えながら、命の大切さや人間としての在り方について語られ、会場は感動とユーモアに包まれました。ゴルゴ松本氏は、法務省矯正支援官の立場から少年院などでも講演活動を行っております。

第三講座では、高崎商科大学特任教授の熊倉浩靖氏が「知識の菩薩・道忠禅師」と題し、禅師が現れる土壌となった当時の東国の様子を、上野三碑の「山上碑」などから読み解き、その後の禅師と天台宗との関わりなどについて『叡山大師伝』を引用しながら講義を行いました。熊倉氏の講義に参加者は見識を深めることが出来ました。

開講式では、再び三浦祐俊師導師による法楽の後、天台宗布教委員の坂本廣博師による講評、塩入秀知関東信越地区協議会副会長による挨拶が行われ、研修会の修了証書は、参加者代表の藤田祐準群馬天台青年会会長に授与されました。謝辞を渡辺玄晃群馬教区布教師会副会長が述べられ、研修会が終了しました。

この研修会では、参加者同士の交流を深め、これからの寺院の在り方や僧侶としての役割を再確認する貴重な機会となりました。参加者たちは、それぞれの講座で得た知識や気づきを共有し、今後の活動に活かしていくことを誓いました。



群馬教区布教師会会長
角田興憲師



群馬教区布教師会副会長
渡辺玄晃師



講師 熊倉浩靖先生



講師 ゴルゴ松本先生



講師 吉澤健吉先生



研修生代表 藤田祐準師



関東信越地区協議会副会長
塩入秀知師



天台宗布教委員
坂本廣博師



比叡山延暦寺副執行
今出川行戒師



天台宗教学部長
岩田真亮師



関東信越地区協議会会長
金子聡秀師



会場全景



法楽の様子

能登半島地震

令和六年一月一日、石川県能登地方を震源とする最大震度七の地震が発生しました。

それを受け、天台宗では一月九日に「令和六年能登半島地震天台宗災害対策本部」を設置。一月二十一日に金沢市内にある被災した天台宗寺院をお見舞いすると共に、現地の薬王寺（金沢市）にて「天台宗防災士協議会」と「天台仏教青年連盟救援委員会」のメンバーを加えての支援方針の協議を行いました。

また、「一隅を照らす運動総本部」では「地球救援事務局」を窓口とする緊急支援募金を開始され、二月十六日には、二月九日までに全国の宗内寺院より寄せられた義援金四、〇〇〇万円が、被災地の各自治体や公的支援機関などにそれぞれ寄託されました。群馬教区からは、義援金として三〇万円を北陸教区へ支援させていただいた他、教区内各寺院個別にて浄財・支援物資等の寄託を行っています。

現在も、各団体にて協議を重ねながら継続した支援が行われ、僧侶によるボランティア活動も徐々に展開されています。また、地震の発生から四十九日にあたる二月十八日には各地において犠牲者の冥

福と被災地の早期復興を祈る追悼法要が奉修されました。

天台宗としては、宗祖伝教大師が示された「忘己利他」の精神で、今後も物心両面の支援を尽して参ります。



現地の道路状況(天台宗務庁提供)



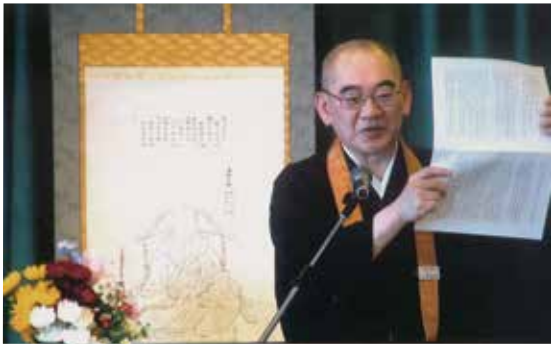
現地の被災状況(天台宗務庁提供)

令和五年度群馬教区特別研修会 教区新年総会並びに古希祝賀会

令和六年二月六日伊香保温泉ホテル木暮コンベンションホールにて群馬教区・教学布教法儀研修所共催の『特別研修会』が開催されました。今回は比叡山延暦寺執行(当時)水尾寂芳師による「十八道行法要文と光明真言法」という内容で講義をいただきました。

水尾寂芳師は約三時間にわたる講義の中で、各流派の所作の違いを細やかにご説明くださっただけでなく、『国訳聖教体系』『四度行記私抄』『十八道立印鈔』『四度見聞』等の貴重な書物の中の特に重要な部分について、資料をもとに丁寧に解説してくださいました。

参加者らは、「ひとつひとつの作法には全てに理由があった。」「さつそく自行に生かしたい。」



講師 水尾寂芳師



法楽の様子

「台密の奥深さにあらためて触れることができた。」と歓喜し、会場は天台密教をより深く学べたことへの感謝で溢れていました。また、講義後の今出川行戒延暦寺副執行のご挨拶の中では、時代の変化にともなう本山や天台宗の現況などが報告され、参加者はそれぞれに宗門の置かれている状況や社会的使命を学びました。研修会に引き続いて同日午後七時より、教区新年総会並びに古希慶祝の祝賀会が盛大に催されました。古希を迎えられた六名の方々に「一隅を照らす運動」群馬教区本部会長の門倉政仁師より教区記念品が贈呈され、祝辞が述べられました。



天台宗議会議員
原徳明師



比叡山延暦寺副執行
今出川行戒師



研修所長
小作昌隆師



研修の様子



研修生代表 真下智成師

古希祝賀者

(生年月日順)

- | | | | | | | | | | | | |
|---------|-------|----------|---------|---------|--------|----------|--------|----------|--------|----------|--------|
| 桐生部 長昌師 | 林 祐昌師 | 下仁田部 安養寺 | 長谷川 最定師 | 高崎部 萬福寺 | 秋元 了典師 | 下仁田部 昌福寺 | 市川 周栄師 | 西前橋部 光厳寺 | 田中 祥順師 | 伊勢崎部 養壽寺 | 浅若 祐琴師 |
|---------|-------|----------|---------|---------|--------|----------|--------|----------|--------|----------|--------|

天台宗海外開教・ハワイ別院開創五十周年記念法要並びに 西前橋部光巖寺名誉住職 田中祥順師 ハワイ別院第三代住職晋山奉告法要 ～ハワイ別院参拝群馬教区団が随喜～



ハワイ別院参拝群馬教区団

天台宗ハワイ別院（米国ハワイ州ホノルル）で令和五年十一月二十五日（日本時間二十六日）、天台宗海外開教・ハワイ別院開創五十周年を祝う記念法要と、群馬教区西前橋部光巖寺名誉住職である田中祥順師のハワイ別院第三代住職晋山奉告法要が、天台座主御名代妙法院門跡門主杉谷義純大僧正御導師のもと執り行われました。

日本からは、阿部昌宏天台宗宗務総長、小寺照依延暦寺副執行（水尾寂芳延暦寺執行「当時」代理）、西郊良光曼殊院門跡門主、小堀光實三千院門跡門主方のご来賓、天台宗海外伝道事業団の山田俊和理事長や蘭實丞副理事長、奥山元照事務局長など多くの関係者約一三〇名が随喜しました。

群馬教区としては、有縁の方々によるハワイ別院参拝群馬教区団を結成し、三浦祐俊宗務所長を団長に二十六名の参加者とともにこの節目の記念法要に随喜しました。田中祥順師を第三代住職として迎えたハワイ別院は、晋山奉告法要を円成し、新たな時代へのスタートを切り

ました。天台宗ハワイ別院は、昭和四十八年に日光山輪王寺より葉師如来像を遷座しホノルルの地に開創されました。そもそも天台宗の海外への開教は諸宗派よりかなりの遅れをとっていた状況でした。大正七年にハワイ別院の前身である天台宗不動尊布教所が創立され、開教使も派遣されましたが太平洋戦争の勃発で中断されるなど、多事多難の時代の中で海外開教は難航を極めていました。戦後昭和四十五年に天台宗

議長議長であつた羽場慈温大僧正が、ハワイの幼児教育の視察の折、現地の日本人移民の人々から「ふるさとの宗派である天台宗のお寺を開いてください。」とお願ひされたのをきっかけに、昭和四十八年「天台宗海外伝道事業団」が設立され、同年十一月に開創となりました。以来、第一代住職荒了寛大僧正と、奥様である第二代住職の荒了周師によつて護持されてきたハワイ別院の半世紀は、まさに荒夫妻の並々ならぬご努力の五十年でありましたが、平成三十一年に荒大僧正、令和元年に了周師が相次いでご遷化されました。そして令和三年に、荒



新住職 田中祥順師 謝辞



三浦祐俊群馬教区団団長より御灯明料を奉納



祝辞を述べる三浦祐俊群馬教区団団長



謝 辞

天台宗ハワイ別院住職 田中祥順

本日は、天台宗海外開教並びにハワイ別院開創五十周年記念法要式典 晋山式 荒了寛記念館開館式 荒夫妻顕彰碑除幕式にご出席賜り誠にありがとうございます。

さて、天台宗ハワイ別院は、一九七三年十一月に、当時の天台宗宗議会議長であった故羽場慈温大僧正らが中心となって開かれました。当時既に、日本人移民とともに渡ってきた、浄土宗、浄土真宗、曹洞宗、真言宗などの諸宗派は、百年以上の歴史を持ち、日本人移民の人々が寺院を建立して僧侶を日本から招いた様です。天台宗は今年が

五十周年ですが、ハワイ別院の御本尊である薬師如来は日光からハワイに遷座され、ハワイ別院開院式と御本尊薬師如来入仏開眼法要が天台座主、菅原栄海大僧正猥下のもとに厳修されました。そして、初代開教総長に荒了寛師が任命されましたが、別院設立当初の荒大僧正のご苦勞は計り知れないものが有ったものと思います。その努力を天台宗海外伝道事業団が支援した訳です。その後、荒大僧正は、独自の画法で描かれた仏像画の個展を、アメリカ、日本で開かれ、その収益を別院の経営に回されたと聞いております。

山田恵諦座主猥下は、「仏教はインド、中国、韓国そして日本へと東漸を続けハワイに至った。更に東漸を続けてアメリカ本土へ、ついには世界を救う法灯にならなければならない」と語られたと言います。

今日、ハワイ別院五十周年の歴史と経緯を顧み、微力ではありますが、法灯を護持し発展させていかなければならないと思います。そして、世界平和実現の根底には、宗祖伝教大師様のみ教え、「忘己利他」「一隅を照らす」ご精神が重要であり、天台宗の教義と信仰を広めることが、ハワイ別院の目的であり、使命であると感じています。今後とも、ハワイ別院に対する、ご支援、ご教導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。



ハワイ別院晋山式に随喜して

群馬教区宗務所長 三浦 祐俊

天台宗海外開教五十周年記念事業開催誠におめでとうございます。今日に至るまで海外開教の支援に尽力され、理想の実現に心血を傾注された海外伝道事業団役員各位並びに多くの天台宗徒の諸大徳に、衷心より厚く敬意を表します。

問する運びとなりました。

秋元山江月院光嚴寺は総社城主秋元家の菩提寺であり、秋元家御廟所には秋元家累代のお位牌が安置してあります。また修行寺として多くの僧侶を養成し、古くは灌頂道場として密教伝授の儀式を行ったことを知る仏具等も保存されている群馬の名刹であり、田中祥順師は第二十二世住職を長きにわた

り務められました。更には、社会福祉法人照隅会宝塔保育園園長として、次代を担う大切な子供達を預かり、国の宝と呼ばれる人

を二期、続けて参務財務部長等を歴任し、現在は群馬教区顧問を務め、高邁なる学識と卓越なる工夫をもって、宗門の興隆に尽瘁されたことは皆様の周知するところです。令和二年十月一日より開教使（海外布教師）として、ハワイ別院代務者を務め、その穏やかで爽やかなご人徳により、現地の方々とも上手に交流されていると聞いています。田中祥順師においては、ご法体ご自愛され、創意工夫と時代進取の精神を遺憾なく発揮され、一層の活躍を遂げられることと確信しております。今後、益々ハワイ別院から世界に向けて、宗祖大師様の教えが敷衍され、世界の人々の安寧と平和が実現することを願うと共に、海外伝道事業団並びにハワイ別院の更なる発展をご祈念申し上げます。お祝いの言葉と致します。

天台宗海外開教並びに

ハワイ別院開創五十周年記念法要

天台宗ハワイ別院第二代住職田中祥順師晋山奉告法要

【次第】

壹番鐘 午後十二時三〇分 参集装束
貳番鐘 午後十二時五〇分 整行列
参番鐘 午後一時 入堂 入堂楽有

先入 堂 下座入口上座千鳥
新住職・大導師正面

次 開式の辞 一礼の後着仮座
司会

次 辞令伝達 新住職正面にて
辞令拝受

次 新住職登壇

次 三礼・如来唄

次 表 白 式衆心経唱和
六丁

次 般 若 心 經 式衆心経唱和
六丁

次 法 華 成 仏 偈 降壇後着仮座

次 新住職降壇

先 記念法要開式の辞 司会

次 大導師登壇 鳴磬二丁

次 始 段 唄 唄師跌座後発音 散

次 散 華 華終迄唱之

次 対 揚 乙様上段 散華師発音
大衆列立 散華付楽有

次 法 則 略対揚文 散華師唱
之畢一同平座

次 法 案 大導師唄之
世尊偈誦誦 以下

次 本 尊 真 言 始経師発音

次 大 師 宝 号 薬師大咒各三遍
高祖・宗祖両大師

次 後 唄 畢鳴磬六丁

次 大導師降壇 着仮座
司会

【式典】

先 開式の辞 天台宗海外伝道事業
団理事長

次 お 言 葉 天台座主代理
妙法院門跡門主

次 表彰状贈呈

次 感謝状贈呈

次 祝 辞 天台宗宗務総長

次 祝 辞 比叡山延暦寺執行

次 祝 辞 ハワイ仏教連盟会長

次 来賓紹介 司会

次 謝 辞 ハワイ別院住職

次 閉式の辞 天台宗海外伝道事業
団副理事長

次 退 堂 退堂楽有 退堂後出仕・
来賓・随喜全員が荒

次 荒了寛記念館テップカット
顕彰碑除幕・記念撮影

【記念夕食会】

開会の辞 司会者

来賓紹介 日本側 佐藤 正寛師
ハワイ側 小池 良児氏

挨拶 天台宗海外伝道事業団
副会長 三千院門跡門主
小堀光實大僧正

祝 辞 天台宗海外伝道事業団顧問
曼殊院門跡門主 西郊 良光大僧正

祝 辞 元ホノルル総領事
元特命全權大使 重枝 豊英氏

祝 辞 群馬教区所長 三浦 祐俊師

贈 呈 マウイ島大規模火災
救援募金贈呈

挨拶 天台宗宗務総長 阿部 昌宏師
ホノルル総領事
日光輪王寺門跡
執事長 今井 昌英師
ウクレレ演奏 フラダンス
ハワイ別院住職
天台宗海外伝道事業団常任理事
天台宗議会議長 細野 舜海師

ハワイ別院参拝群馬教区団



天台座主御名代妙法院門跡門主 杉谷義純大僧正より辞令伝達



ハワイ仏教連盟会長 金井勝海師 祝辞



延暦寺執行代理 小寺照依師 祝辞



法要の様子



ハワイ別院御内陣



辞令と本尊薬師如来



群馬天台雅楽会



祝賀会の様子



顕彰碑前にて



会場の様子

新住職紹介



北群馬部 法峰寺
大須賀 亮照 師

令和六年三月一日



北群馬部 華藏院
大須賀 亮宥 師

令和六年三月一日



桐生部 善龍寺
米原 祐文 師

令和六年三月二十四日



北群馬部 東光寺
小野里 俊海 師

令和六年四月十一日



西群馬部 稱名寺
綾小路 淳裕 師

令和六年四月二十五日



東前橋部 正圓寺
山本 堯幸 師

令和六年五月十四日



東前橋部 円城寺
小作 侃隆 師

令和六年五月十四日

群馬教区檀信徒会連盟・伝道師会連盟
総会並びに合同研修会

群馬教区（三浦祐俊宗務所長）では、去る令和六年五月三十日に群馬県 J Aビル（前橋市）にて、一六〇名の参加者を迎え、群馬教区檀信徒会連盟・伝道師会連盟の総会並びに合同研修会を開催しました。

前半では、檀信徒会連盟と伝道師会連盟がそれぞれ会場を分けて総会を行い、檀信徒会連盟、伝道師会連盟ともに、慎重な審議の結果、すべての議案が承認されました。

後半の研修会では、両会の参加者が大ホールに集い、三浦祐俊宗務所長を導師として全員で『天台のおつとめ』をお唱えした後、群馬天台雅楽会が奏でる音色の中、平安時代の衣装を身に纏った、講師である群馬大学名誉教授 藤本宗利先生が厳かに登壇され、その息をのむような優雅さに会場全体が魅了されました。



会場全体



講演される藤本氏



雅楽の演奏と共に登壇する藤本氏



三浦祐俊宗務所長の挨拶



お勤めの様子



お勤めの様子



お勤めの様子

天台宗檀信徒会
理事就任

神宮直仁群馬教区檀信徒会連盟会長におかれましては、去る令和六年五月九日開催の「天台宗檀信徒会第一回役員会」において、天台宗檀信徒会理事に選出され、ご就任の榮譽に浴されました。

叙勲及び大臣表彰

藍綬褒章

桐生部 天王院住職
小林 静伸 師

大僧正・権大僧正補任

大僧正

伊勢崎部 龍善寺住職
門倉 政仁 師

権大僧正

南前橋部 光琳寺住職
林 祐進 師

北前橋部 龍藏寺住職
眞木 興空 師

桐生部 大藏院住職
静谷 行暢 師

示寂

伊勢崎部 金藏寺嗣
竹田 隆和 師
令和五年十一月六日 九十三歳

伊勢崎部 普光寺嗣
山口 祐博 師
令和五年十一月六日 七十五歳

沼田部 華藏院前
飯塚 賢祥 師
令和六年二月十九日 八十九歳

西群馬部 稱名寺
綾小路 孝純 師
令和六年二月二十一日 八十二歳

西前橋部 延命寺
村上 興進 師
令和六年二月二十九日 九十三歳

世良田部 天人寺嗣
濫澤 一真 師
令和六年四月十四日 九十歳

下仁田部 昌福寺嗣
市川 寿榮 師
令和六年五月四日 百歳

沼田部 金剛寺
高山 廣昭 師
令和六年五月二十五日 九十一歳

シリーズ群馬の寺々 第五十三回

伊勢崎部
長久山世尊(音)院 正観寺 住職 観月 祐真

伊勢崎市上植木本町二六六一・一

当山は、元文三年（一七三八年）上植木村の『書上帳』によれば、「往古は開基知れず。今、寺庭と申す所に建つ。その時代、植木一村なり。しかるにいつの頃か焼失いたし、本尊正観音、同所北の方に化応院と申す山伏屋敷へ移し、堂を建て置き、正観寺は退転に及び候由」

「その後、天正十六子の年 大胡子守三男主税之助様御年十六歳の時、正観寺を御取り立て、御住職に成られ、それより当寺開基と成り」とある。『伊勢崎風土記』の正楽院の項には「解魔行者華応院なる者、後に天台に改宗、長久山世尊院正観寺と号す。」とある。これらを基に寺伝では、天正十六年（一五八八年）傳中法印（大胡城主伊予守三男主税之助）を開基の祖としている。また、天明六年（一七八六年）の華蔵寺の書上げによれば同寺の末寺の一つに上げられている。

享保十三年（一七二八年）第八世弘寛の代に本堂建立時の棟札を残しているが、現在の本堂は、それから五十一年後の安永八年（一七七九年）中興の祖第九世諄海和尚の代に建立されたもので、昭和十七年（十八年頃）までは入母屋造りの茅葺であったという。現在の屋根は緩勾配な寄棟造りの瓦葺である。



正観寺本堂

本堂は、明治期に学校の仮校舎や村役場として使われ、町公民館新設（昭和四十四年）までは、地元の農事や防災、青年団・婦人会等、様々



欄間

な行事や会合に使われた。また戦中戦後は疎開施設としても提供された。

本尊は、正（聖）観世音菩薩（木製座像）、脇侍に不動明王と毘沙門天を従えた三尊仏形式であり、彩色を施した欄間彫刻（七福神）

や、内陣襖・天井絵（飛天画）等からも密教色の濃い形態であることが窺える。元は檀徒は無く（昭和二十二年以前まで）、仏法興隆を主に信者の息災・諸願成就（農作物の豊穰や風雨順時・天災・飢饉や疾病の平癒）等、地域の安寧隆昌と現世安穩を祈禱した寺院であった。毎月十八日は観音様の縁日が行われ、戦前は参道の両側と境内に露店が出て賑ったという。

本堂内には中世に遡る正（聖）観世音菩薩像（秘佛内陣須弥壇奥扉内安置）や、僧形の智拳印像の石造佛が安置されている。この正（聖）観世音菩薩像は元文三年（一七三八年）の『書上帳』に「本尊正観音石仏云々」とあることから、以前より本尊としていたものと考えられる。門前には書上（三和町の一部）の馬殿林から寛永二十年（一六四三年）住職傳中法印が寺中に安置したとされる義経伝説の駒ヶ塔が奉られている。

昭和六十一年より

毎月二十八日には不動尊護摩供が奉修されている。



ふすま絵



三尊仏

林倉寺晋山式



林倉寺本堂

令和六年五月十二日、西前橋部・林倉寺にて第二十七世新命住職・西林乘仁師の晋山奉告法要が執り行われました。法要は唄、散華、梵音、錫杖の四種の声明からなる四箇法要にて営まれ、群馬天台雅楽会による奏楽も行われました。



新命住職 西林乘仁師



法要の様子

宗務所清掃

令和五年十二

月十一日、宗務所職員、寺庭婦人会、群馬天台青年会合同による宗務所清掃が行われました。新年を迎えるにあたり、教区内の皆様が気持ちよく利用できるように、心を込めて清掃致しました。



清掃の様子

天台仏教青年連盟 オンライン研修会

令和五年十二月四日、群馬教区宗務所にて群馬天台青年会を対象とした「経本研修会」、並びに、令和五年十二月六日、天台仏教青年連盟主催による「オンライン研修会」が行われました。



講師を務める藤田会長

両研修会では群馬天台青年会藤田祐隼会長が講師を務め、同会にて編纂した葬儀式作法集『令和新編無常導師作法』の解説と作法の説明が行われました。